

Operation Raleigh News



Operation Raleigh
DENSO

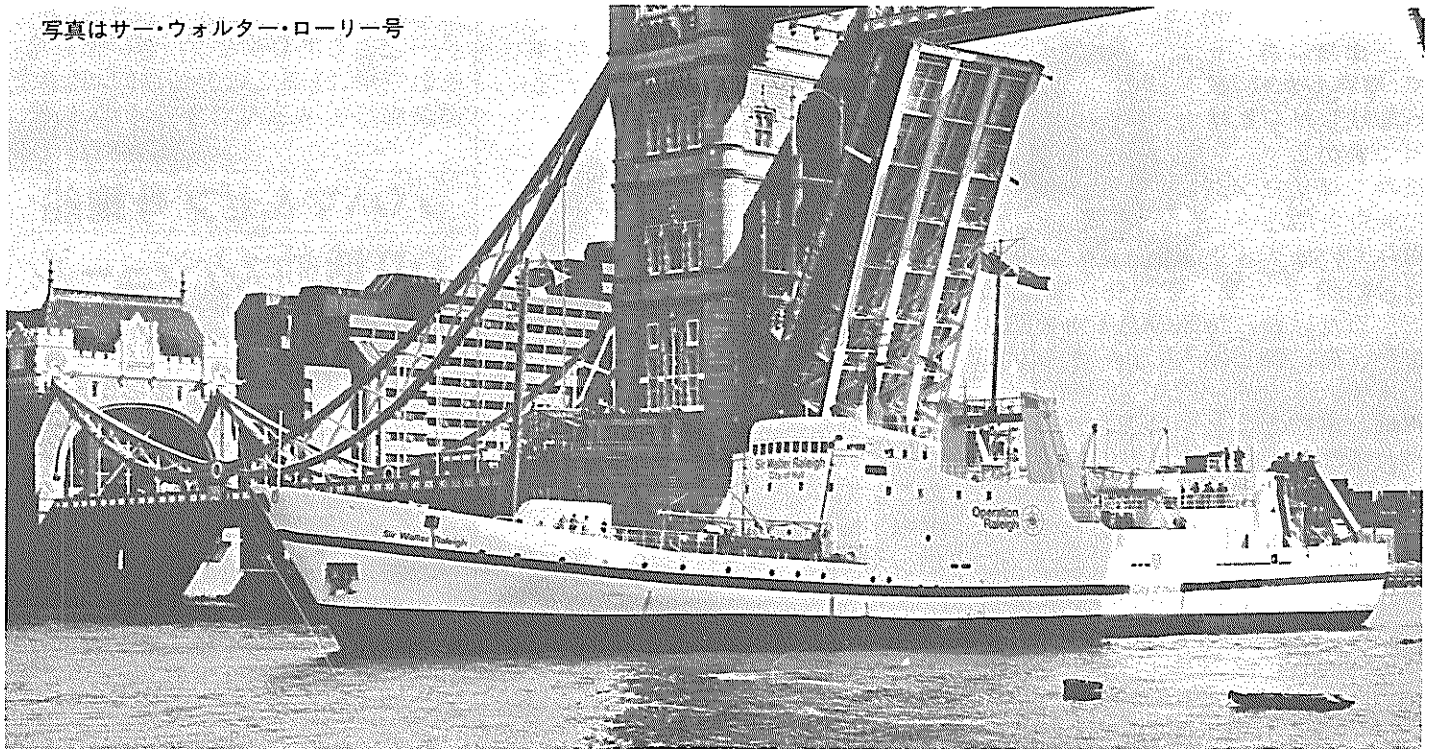
No.3 第3号 昭和59年(1984)12月5日(火)
毎月1回発行

●発行所 オペレーション・ローリー日本委員会
〒104 東京都中央区築地1-7-10 築地オーミビル502号
電話 東京(03)544-7413

●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装㈱のご協力で作られたものです。

チャールズ皇太子のお見送り受けて 旗艦S.W.R. 冒険航海へ

写真はサー・ウォルター・ローリー号



オペレーション・ローリー1984年次日本代表派遣青年第2陣の戸上忠顕君、橋本かおりさん、伊藤由樹子さんの3人は、11月初めから旗艦サー・ウォルター・ローリー号に乗組み、出発前の訓練や準備に参加していましたが、同艦は11月13日(火)チャールズ皇太子ご臨席、ご自身の操舵による出航式を迎え、多数の関係者やハル市民の盛大な見送りを受けて、4年間・12万マイルの航海に出ました。

サー・ウォルター・ローリー号に乗組んだ冒険青年たちは20人。日本の3人のほかには、イギリス、アメリカ、カナダ、ホンコン、オマーンなどの青年たちが含まれています。

11月13日の出航式の模様は、翌日

の英国各紙(デイリーメール、デイリーテレグラフなど)にも取りあげられています。その一部を引用すると次のとおりです。

国際的な冒険青年プロジェクトであるオペレーション・ローリーは、厳しい警護のなか、ハルを訪れたチャールズ皇太子によって送り出された。ハルのフェリーターミナルに接岸したサー・ウォルター・ローリー号のブリッジ・デッキからチャールズ皇太子は「オペレーション・ローリーに休日はない」とスピーチした。また、ジョーク好きの皇太子は、大変上機嫌で、肩にオオムを載せて、「出発の時間が来たようだ。私がまだ出航の合図をしていないのに、われわれはもう出発してしまっているようだね」

という十八番のジョークが出たほどでした。



S.W.R.号の話題は英国各紙に取りあげられた。

第3陣出発前インタビュー

体力と英会話がポイント バハマ組・ジャマイカ組が語る

オペレーション・ローリー1984年次日本代表派遣青年第3陣のメンバーは、12月中旬成田を出発し、空路バハマに向かいます。そのメンバーは、バハマ組が堀内一秀君、大見則親君の2人、ゼブ号乗船組が小俣博泰君、戸崎肇君の2人、合計4人です。4人とも12月中旬から来年3月初旬までの予定。出発に先立ち、4人の派遣青年にインタビューを行ないました。

参考文献を読んだ

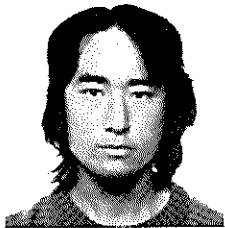
——出発にあたって、用意したり、習ったりしたことは何ですか？

堀内 ダイビングの免許を取ろうと思っています。また、ヨットにも2~3回乗りました。できるだけ海に関係のある本を読んだり、海に詳しい人に会ったりしています。

戸崎 学校のことや身の整理に追われてなかなか思うようにはいきませんが、参考文献は読んでいます。

大見 とくに用意しているものはありません。

小俣 比較文化論に関する本を読んでいます。



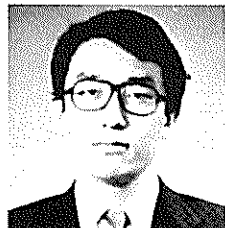
救急法免許を取得

——この冒険旅行のために、何をしましたか？

堀内 テープ教材を取り寄せて、英語の勉強をしています。また、サンゴ礁のことを少し調べてみました。

大見 救急法のライセンスを取りました。体力が第一だと思い、プールで週2~3回泳いで鍛えています。

小俣 僕も救急法のライセンスを取得しました。最近2回ほど登山に行ってきました。ウエイト・トレーニングをやって筋力強化をめざしています。英語のポキアプラーも増やしました。



話をやっています。

——オペレーション・ローリーに応募したキッカケは何ですか？

大見 スケールの大きな企画であり、アドベンチャーに興味があったからです。

戸崎 誰でもが行ける海外ツアーではなかったから。このような冒険旅行こそ、海外の本当の姿を知るチャンスであり、そのスピリットを感じられると思ったから。

小俣 科学調査に非常に興味をもったこと、また海外交流に意義を感じたことです。

堀内 南米にどうしても行ってみたいから。もっともバハマ諸島は南米とは違うでしょうが……。高校時代の友人がオーストラリアで仕事をしていることを知ったとき、自分もぜひ海外で何かしなくてはと強く思いました。



友だちの輪広げる

——参加するにあたっての抱負を聞かせてください。

堀内 イギリス人、オーストラリア人など一緒に仕事をしたり、船に乗ったりする人々の考えを知りたいと思っています。外国人との共同作業は初めてなので、そのなかでいろいろ勉強できることを期待しています。

戸崎 海に親しみたいと思います。ボートが専門なのですが、帆船の生活も満喫して、大好きな海での生活を体験したいと考えています。

大見 世界中に友だちの輪を広げます。

小俣 一生の友人を見つけてきたい

と思います。西洋と東洋では考え方も違うと思うので、日本の考え方をPRしたり、批評し合ったりして、刺激を与え合いたいと思います。また、哲学的な意味で、自然と人間、異文化交流を考える体験をしたいと願っています。

——これから出発する人たちへの一言をどうぞ。

戸崎 学校のことは早めにキチンとすること。なるべく多くの人の意見を聞いた方がよいと思います。

堀内 準備をしっかりと怠りなく。

大見 自分の行先のことをなるべく詳しく調べておくことが必要だと思います。

小俣 英語をがんばること。

——どうもありがとうございました。それでは、健康に気をつけて、元気で冒険旅行を楽しんでください。



バハマ&ゼブ号乗船 OR活動スケジュール

オペレーション・ローリー英国本部からの情報によると、バハマ組、ジャマイカ組は、次のようなスケジュールで活動する予定です。

■バハマ組

1984年12月20日(木)

1985年3月6日(水)

参加青年125人(うち日本2人)

●12月20日(木)・21日(金)

イギリス、日本、ホンコンその他の国からの派遣青年たちが全員パーバリービーチに到着。

●12月22日(土)

簡単な指示のあと、ダイビングの予備訓練、救助法訓練、無線機操作訓練などを開始。

以降約2ヵ月半、バハマ諸島での調査、冒険、奉仕活動に参加。

■ゼブ号乗船組

1984年12月20日(木)

1985年3月7日(木)

参加青年16人(うち日本2人)

●12月20日(木)

マイアミ国際空港にて到着報告。

●12月21日(金)

SWR号で海上移動、午後3時頃フリーポートに到着。

以後約2ヵ月半、ゼブ号に乗り、ターク島、カイクス島探険隊に合流、サポート。

●オペレーション・ローリー

バハマ&ゼブ号での活動計画

美しいサンゴ礁の保護調査

オペレーション・ローリー英国本部では、バハマ諸島での活動計画を次のように発表しています。

バハマ組

〔科学活動〕

●バハマのブルーホールは、氷河期末期に増大した海水のために水没した洞窟です。このブルーホールの調査・探険は地学、生物学上の新しい発見が期待できます。参加青年たちは専門家の指導で、比較的浅いブルーホールへの潜水にチャレンジします。

(活動地/グランドバハマ、サウスアンドロス、アバコ、イナグア、キャット島)

●サンゴ礁観察/ヨーク大学熱帯海洋研究所のスタッフを中心にして行なわれるORサンゴ礁プログラムの第1プロジェクトがバハマです。サンゴ礁を破壊する原因をさぐり、これを保護する方法を研究する国際的なプロジェクトです。

(活動地/イナグア、キャット島、グランドバハマ、ナッソー、ニュープロビデンス、サウスアンドロス)

●バハマ諸島の浅瀬における海草の調査と分布図づくり。合衆国の環境庁の援助で、海草を植える作業も行なわれます。

(活動地/イナグア、グランドバハマ、ナッソー、ニュープロビデンス、サウスアンドロス)

●キャット島ほかの植物群調査と分布図づくり。

●ハーバード大学ロス博士のウミガメ追跡調査のアシスト。

●イナグアの野鳥調査。

●人間の磁気感知力を調べるため、

羅針盤なしで参加青年たちにテスト航海させます。ハト、ネズミ、魚類、イルカなどとの比較を通じて、人間の能力を確かめるものでロビン・ベーカー博士が指導します。

〔奉仕活動〕

●グランドバハマの石材を使って、ユースセンターの建設。

●サンサルバドルでの保健活動。

●グランドバハマおよびキャット島のバプテスト教会の修復作業。

●グランドバハマのルカヤン国立公園の整備・清掃。

●ナッソーの近くの植物園の修復。

〔冒険活動〕

●海底の難波船探険。

●キャット島の洞窟探険・調査。

●イナグアのイノシシの調査。

ターク&カイコス諸島の探険隊をサポート

ゼブ号乗船組

ゼブ号乗船のメンバー16人は、1D探険隊(ターク島・カイコス島)に合流し、これをサポートすることになっています。このプロジェクトの活動内容は以下のとおりです。

〔科学活動〕

●カイコス島中部の洞窟探険。洞窟内のコウモリの研究・収集。

●カイコス島中部のグンカンドリ群棲地調査。

●サンゴ礁調査。塩素系漂白剤による汚染の進行をくい止め、西部の

砂洲を保護。

〔奉仕活動〕

●ターク島の青少年センターの再建

●ターク島の高校のグランド保護柵の設置。スポーツ用更衣室建設。

●北カイコスの学校のバスケットボールコート建設支援。

〔冒険活動〕

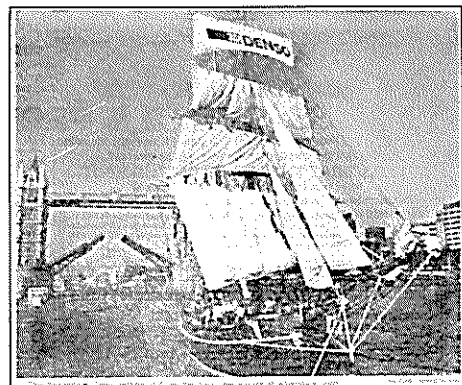
●フレンチ岩礁の難破船調査に参加。難破船はコロンブス船団の一隻・ピンタ号で、水面下20~40フィートに沈んでいると考えられ、この船を発見すれば、ターク&カイコス諸島が、コロンブスの新大陸発見区域に含まれることが立証されます。



オペレーション・ローリー & 日本電装

デイリーテレグラフ紙にNDマークのゼブ号掲載

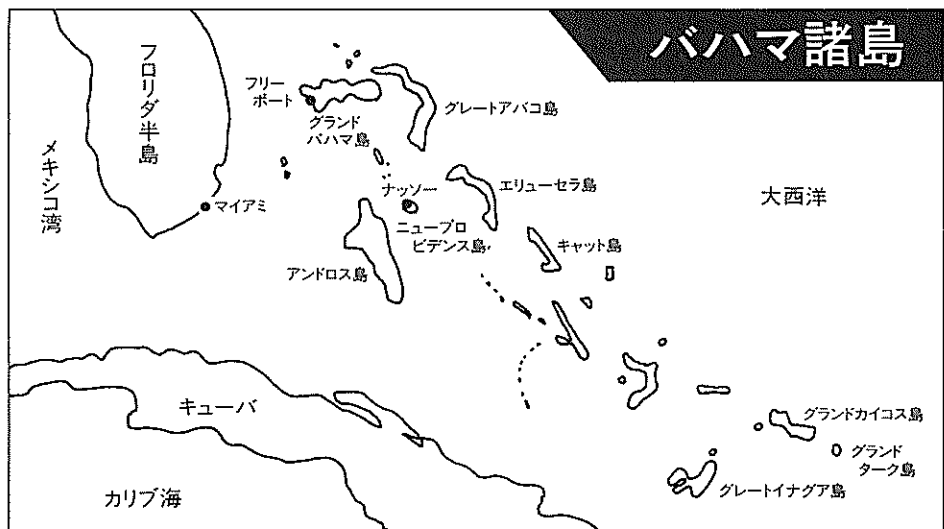
「オペレーション・ローリー出帆」という見出しの記事がデイリーテレグラフ紙に掲載されました。帆船ゼブ号がロンドンを出発するときの光景の大きな写真入りで、ゼブ号のメインマストにプリントされたNDマークもはっきり写っています。



Operation Raleigh weighs anchor

Keep Daypage Reporter... The... of London, 1988.

デイリーテレグラフ紙の切りぬき



日本電装 海外でCIS

日本電装では海外でのCIS(コーポレートアイデンティティシステム)にも本格的な取組みを開始しました。新しいロゴタイプ、ブランドマークを使ったプラグの広告展開もそのひとつです。

日本代表派遣青年のページ

ORメンバーはいま

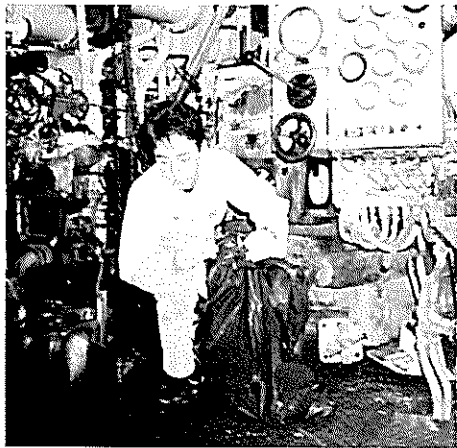
1984年次オペレーション・ローリー日本代表派遣青年たちの近況を、彼らの会報などから抜粋してお知らせしましょう。

第2陣3人の手紙

第2陣の3人がドーバーからロンドン経由でORJ Cに送ってきた手紙の一部をご紹介します。

●戸上忠顕君の手紙

ハルでの2週間は毎日が肉体労働。なぜ、はるばるイギリスまで来て、こんなことをしなければならないのか?」などとひがみっぽくもなりました。しかし、ひとたびS.W.R.号が動き出したら、そんな思いも吹き飛びました。出航式のときにチャールズ皇太子と言葉を交わしたこと、ドーバー海峡に投錨して、ながめた景色の美しさ……ORに参加できて本当によかったと思います。



エンジン室の清掃に取組む戸上君

●伊藤由樹子さんの手紙

S.W.R.号に乗船してから苦労したのはやはり英語です。少しずつ慣れてはきましたが、多勢の会話、冗談などについていくのはまだまだ。戸上君は日本語を話しても相手に通じるから不思議です。チャールズ皇太子とは、3人とも話すことができました。戸上君と私は、皇太子と一緒にテーブルで昼食をとりました。緊張して声はうわずり、後で録音テープを聞くとおかしくなってしまいます。日本とイギリスの違い、日本の食事、ふとん、赤ちゃんについて話しました。現在はドーバーですが、土曜日(11月17日)にはジャージー島に着き、その後、航海術や科学調査などの講義が予定されています。



S.W.R.号に乗船する仲間たち
左から伊藤さん・橋本さん

●橋本かおりさんの手紙(英文和訳)

私たちはハルで出発の日に、何度も新聞記者、ラジオ局、テレビ局からインタビューされました。チャールズ皇太子がS.W.R.号に乗船され、乗船者名簿に署名される時、私は皇太子と直接言葉を交わす機会を得ました。皇太子は本当に高貴で、優しい方でした。航海はいまのところ大変順調で、私たちも全員楽しくやっています。大西洋を横断する間、さまざまな講義が予定されており、かなり忙しくなると思います。

会報担当は岸田・勝間君

第2陣の橋本かおりさんが中心となっていたORメンバー会報の編集担当が、勝間靖君・岸田直子さんに交代しました。10月26日(金)に行なわれた第2陣の壮行会でこの引継ぎが決まりました。壮行会は新宿雲林で行なわれ、第2陣メンバーの3人のほか、勝間靖君、大見則親君、前橋宏美さん、岸田直子さん、菊地孝範君、高柳俊成君、谷川秀夫君の7名が参加しました。

大阪で戸上君の壮行会

大阪府堺市出身の戸上忠顕君の壮行会が大阪のORメンバー、川村豊君、戸崎轟君、吉田靖君、筒井正幸君をはじめ、1985年次チャレンジ組もまじえて、10月13日(土)梅田のお好み焼店で楽しく行なわれました。さらに2次会はろばた風居酒屋になったということです。



ゼブ号は、1ヵ月おくれ?

イギリスからの報告以降、帆船ゼブ号の松井・桃井両君からの便りはありませんが、11月末にOR英国本部からORJ Cに入った情報によりますと、ゼブ号は11月末にポルトガルを出発し、カナリア諸島に向かっており、大西洋を横断して、アンティグア、バハマに到着するのは、当初の予定より1ヵ月ほどおくれそうです。従って、松井・桃井両君と交代して、ゼブ号に乗組む予定の小俣・戸崎両君の行動スケジュールも大幅に変更される公算が強くなってきました。

第2陣は北カロライナへ

サー・ウォルター・ローリー号に乗り込んだ戸上忠顕君、橋本かおりさん、伊藤由樹子さんの3人は、まもなくノースカロライナ州のモアヘッド・シティに到着する予定で、同地でのさまざまな活動が待っています。3人は来年1月中旬すぎに日本に帰ってきます。

なお、第3陣は2面に掲載のとおり12月中旬、日本を立ち、バハマへ向かいます。

第8陣の行先変更

エクアドルからボリビアへ

1985年7月4日から9月24日までの日程で派遣される予定の第8陣(メンバー:菊地孝範君、新保陽子さん)の行先が、エクアドルからボリビアに変更されました。赤道直下のエクアドルから南緯20度前後のボリビアへの変更は、暑さの点では楽になるかも知れませんが、ボリビアでの活動内容はいまのところ未定です。